物草太郎

壹

へ13
4269
1

京都帝國大學圖書之印

序

京都帝國大學圖書之印

閱肆之次偶獲題物草
太郎忠義隱顯紙一冊
予購求歸家一覽之餘
自破其睡魔而此書也

A13
4269
1

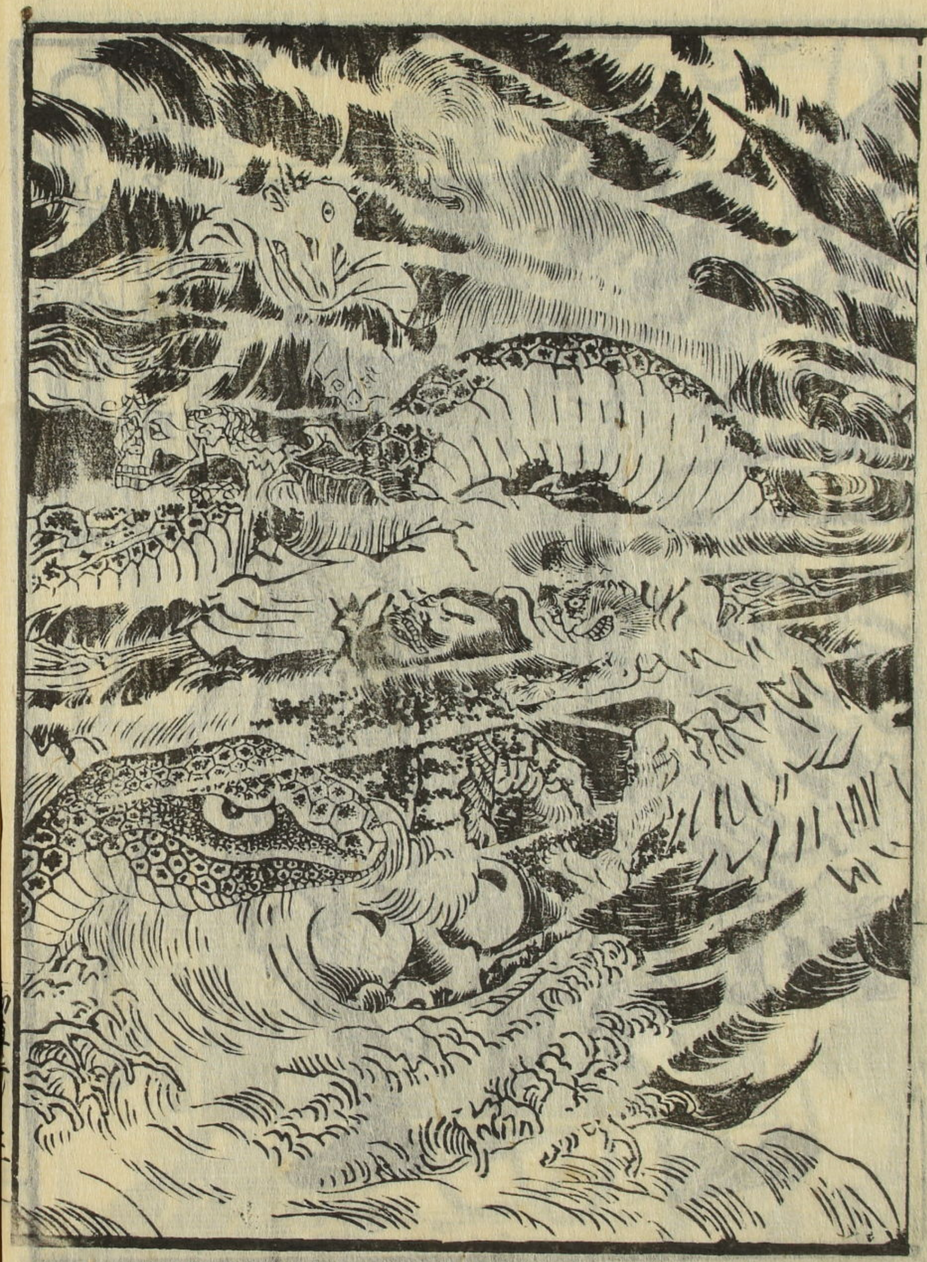
森義夫氏
贈寄

91-2146

典世之所有野史及院
本所紀物草太郎脊点
大有逢庭矣余深以奇
爲頃或請梓之余曰奚
不可因乃俾合刊弋梓

畫於其閣遂行世云
丁卯孟春中澣西湖散人
書於玉安文龍堂

孤鴻遠害入急天弋者
尝能出沈矢以除當
時追捕慢首未迚得此
風姿　西川海鯉画



宇治尤大臣定興公

狼心
狐毒
殘害
一深
在君
子位見
小人心

汝是賊鼠之性處其家壞其家ヲ
嗚呼毒婦隱匿傷哉蹈折名花

橘家蔦女藤江

長岡王子
鬼谷先生

本心非有
惡自是色
迷人

橘家臣浅井乙

妹子鹿女

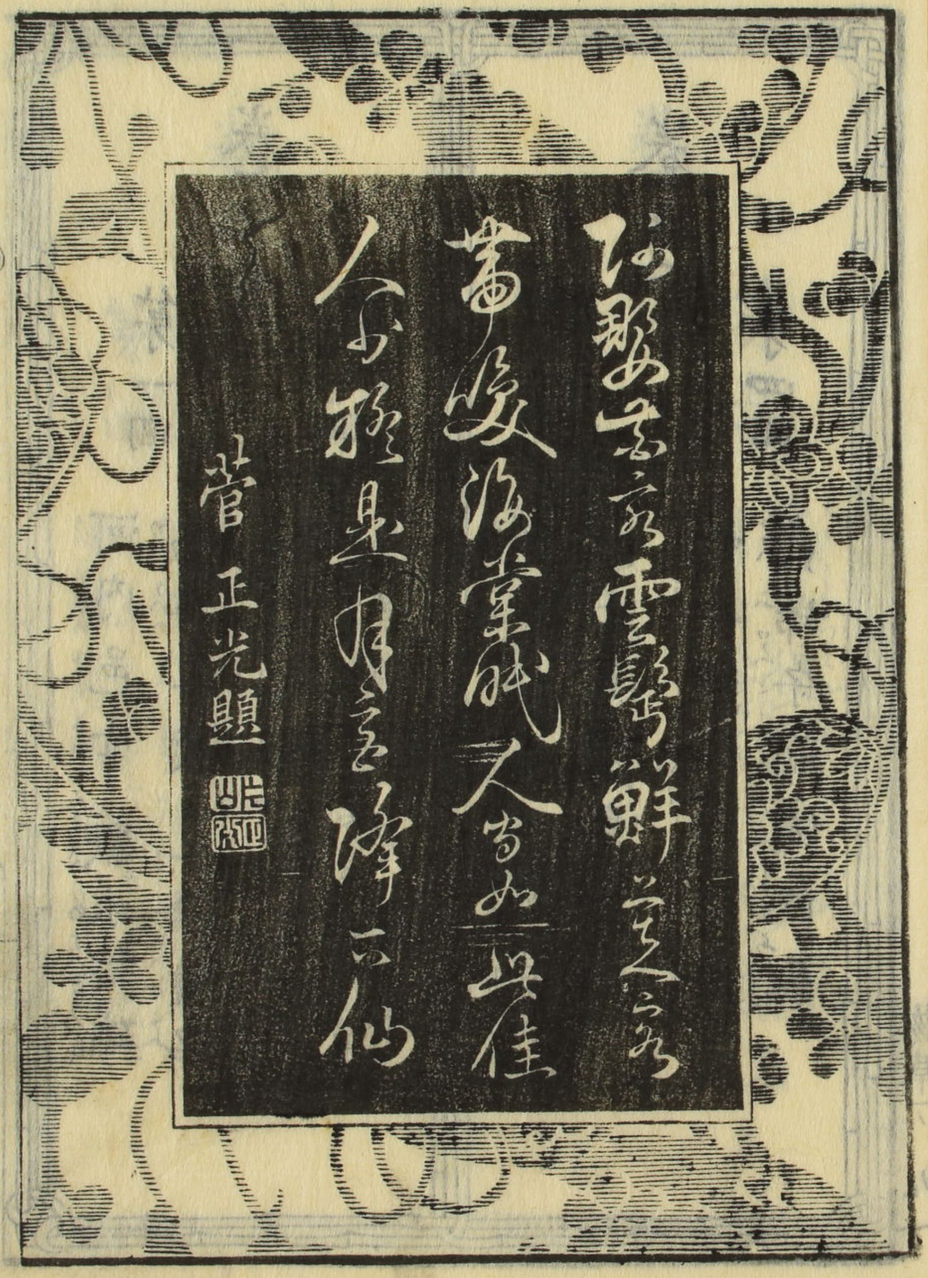
一羅患害

兄妹猴離

天ゴ有窓

在雪寃時

豊前守女雄琴姫


雲鬢鮮美
海棠臙脂
人物殊異
菅正光題

卷之壹

第一回　河内邑宰獻禾稲瑞
勃海王使乞樂鐘銘

第二回　忠良見害罹厄災
虎奸得意恣驕横

卷之二

第三回　老夫諫主君死忠
壯士見寃鬼卧病

第四回　奸妾縱欲貪黄金
貞婦守節伏白刃

卷之三

第五回　逐臣得讃絶郷信
窮人乞路驚行旅

第六回　得良師義氣相許
遭舊主悲喜交集

卷之四

第七回　孤臣寄思洛陽雲
三傑會盟鹿溪地

第八回　蒼蝿附驥尾希達
小龍着蛇服晦跡

卷之五

第九回　野狐扼帛威記怨　孤鴟避弓繳遠害

第十回　孝女典身赦兄難　義夫指財報師恩

卷之六

第十一回　狂士卧茅舍誠人　知縣獵原野放鷹

第十二回　魯人漁邑魅古狸　神器発霊驅夭精

卷之七

第十三回　僧房破戒汚寺範　寡屋失節惹家醜

第十四回　湖水上掠客船　山塞裡屠戮売賊

卷之八

第十五回　英雄鬪劍驚佳人　亞相鳴絃試狂士

第十六回　托天神霊頓愈疾　射雌雄鶴長絶猟

第十七回　貪花少年詭詐計　説謎閨媛逃遁術
第十八回　瘋顛児朗吟秀歌　雄琴姫難惜破琴

巻之十

第十九回　獻策奉勅討逆臣　唱義合兵會諸軍
第二十回　動戈干群兇伏誅　櫜弓矢旧臣復位

第壹回　河内邑宰獻禾稲瑞　勅海王使乞樂鐘銘

霸者之民驩虞如也王者之民皞皞如也夫王者の政上得て德ゝ民下得て恩ゝ恩日月弘四海式照臨而露の草木式潤せぐ民その光澤式ゝうてれ式ゝぐるが如ゝ輕壤の欣式踊して王者の政皞皞如る亦以て這ゝ幸朝仁明帝御ゝ四の海波靜うて吟風性式鳴ゝ民五穀ゝ熟ゝ國富民豊みゝて四事無く來貢ゝ宰ふ五府皞皞如る政道ゝ民壤

を撃て云々朝廷の大臣橘右府光憲云々
治左府定典云帝輔佐奉り萬機の政多の時代
這両個ちそ和漢の才時に長じたまひ橘右
府光憲云才時に抜群代流へ橘
右才と稱し云の文章代に優るもの如き意云摂代
得るべくんば帝んず都下に於て紙價を
故に帝の叡慮深く在さんと欲して両云朝廷の大臣として
國政執行へ那の殿景平ふ自ら出て憲云
に威権婦人に委ね左府定典云意を人
仏に快しもぎ出ぬ代意を挟まば

尚も両公一和して朝政執行へ天下元まりて
豊穣ちはじ代るが河内より色宇両岐の稲木と
熟る柳両岐の喜多代生じる事山王者の徳四海に及ぶ
天神地祇を感應あって赤へ周公旦
成王代輔佐し摂政の任あって徳代行へ
しに両岐の稲代生じ其況和漢倭朝の王者徳澤
下に及ぶ代世祥瑞代あらんめ代代例なし
ぞ代祥瑞増上に啓賀し奉る帝
感喜あって是偏に執政の臣代政の
五十川の水と清く世代護る故なるべしとて

嘉禾生河内
祥瑞亦不空
蠻東盡來
格四海仰仁
風　蕓葉題

勃海王使
来貢の圖

皇太神の祠廟へ奉幣使ばかりつかはされ給ふ事の
殊恩こそ〳〵賞賜ありて民の祖授ばかりの
ものゝ如く海内の王侯の使陳宏道を使
珊瑚樹獻ぜられ首〳〵表〳〵上奏〳〵我國祖廟
の樂隆を樹てゝ長成ばかりの果ぬ貴殿の榊葉
寸世の德高く文章の美世ぶり侍名を
おもへらるゝ誠に我國万代のお宝こんとゝ
ばかり〳〵使陳宏道と玄蕃寮に於待さしめ
給ひ隨即光憲の輕ばかりに陳宏道を
遣らるゝなんべ陳宏道の為王の潤手に

て帰朝のほどなく國の珍器数量の斯〳〵敷
宏道拝辞して順に帰ばかりあげ本國に
く聖ゝる且続うの宏道は隨後し暴て醫師
お柳弟安〳〵る一個の名醫あり彼お柳
く病ばかりふゝるの事神のごとく古〳〵の扁鵲も
て剤をとゞこゝろ忍張屋と紀〳〵一個紙治ものよ
ばあり光憲公の丈人阿国の君〳〵つゝる小絵世の佳人
あり〳〵お素積堀の病あやなまひ成みの
柳弟安剤を〳〵びはばかりて四夜唱
癒〳〵遣るゝ〳〵あり〳〵光憲公深く其術を補

誉れ高き人陳宏道にて十四年我邦に留まりて十四年
帝崩ぜ教化の志しあり然れども領ずして帰国せり
然れども憲宗帝の養育
郡下に一廛の地を賜
邦民を教化
人民を教化
の仁
春秋
衣冠の業
人
章
和の
薩摩
通
帝

此式宣旨を給はり那でさて年の内人屋敷如忍
とのゝ鹿絞なり給ふんとこのさまを奏
して曰我いとくも帝と同性の胥家あり豈虚
偽の言式軽易奏して霞徴を揚げたる式如まん
やこれ信の信なり出ふあらば渠が愛妾なる醫人
柳の希安が稟ゝを把柄あり渠この法和尚
弦悲眼こゝにらて一時の恩を遠に慮式ゝ大夕
を渉やら又錄銘式こゝも柳希安を留保し年も
こゝに托して密に隠謀の計較のあらんか
此秋通の文書勅偽王と贈答の書あり柳希安が

能く言ゝらんと教ゆ其内文書式呈しこの旨
強あゝ人急ぐ其罪を糾あゝ
新よ帝この文書式展開觀看ゝた崇も右府
の手孫ゝ今ゝ舊惶ゝ渠を生忠直
式屋ゝこの長年ハあゝもおばえ
王ゝが白牡丹邪下の膳猫ゝ胡蝶よあゝと面に
金ゝ式飾意の中に辛毒を蓄る小人この猫の壮
年ゝの下ゝ膳るゝ
猫よ猫ゝ右府のゝ式ハ膳猫のゝひゝ
千三八千四水謀統太統後ゝ帝も王ゝの傳

左府の毒手抑希安
殺て
右府代罪ふ陷
圖

ふ遣新羅使に任じて柳帝あり朝鮮
国に渡る間あるべきを又存ずるを新羅
孔門の門りに入て母親はうえて至孝なり
しかるに人来て其母親を告ぐる門りに人を殺
しかるに其の母機を織てあり自若として
尚機を止ざるしかるに曾子人来て殺すと云
況間に殺ひ機杼を止しかるに曾子人来て
親殺すと云ふ母親機を下て驚き走て
母の賢なるを敬掌動かざるその
母親はうえて言ひてびんをもて

殺人三回ふかうべ殺すとも帝の聖智有て
忠良代信じ殺すも王の使雑百敵を極に言ま
どうしてうたがべきに右府公代殺ひうたがふ
却説柳帝安を病石の行幸畢て休
憩し親烈孟代推へ殿内出て樹本をふらめ
居しかれ廂より検非違使の吏人五人傍様ぬく
死人思ひもよらぬ柳帝安代西縛て押絆ふ柳帝
安大ふ怖的あやしく我代の乃犯る罪なりてこの
縛代要しかるに情代知れず壮士ども身をもみび
押絆代ふ為より急て頼代陪て退接人

その犯人を拷問に賜はりしと頑是に憚るもなく明
白なる刀を抜て伴ちたせば吏人們其檻にて
捕縛してそのまゝに柬面を殺し四散梟首す柳
希安をはじめ所ゆる人々も是が我国寛恕をよろこびあへり
しかれば衛をなして我足下の宗朝負をはらはんと
安楽国へ從暴をかさしむらずして捷く明白なる
おのれを揮ひ見えしが 其儘柳希安を身首
両断となりたり 哀むべし 柳希安
波濤を隔て桑梓をさりて永く異郷の鬼となりし
是も前世の冤孽のむくいなるべし 趣なる哉

こはそも正しく閉門の獄裡へなくして 緇天上より来る
しかる言も出ぞよもなく来る光景なり 退
人を淋漓たる刀の血をぬぐひ 城にて収
拾ひ停泉で那里しかなく逃さりき

第二回
忠良見害罹厄災
兇奸得意恣驕横

却説朝廷にては柳希安をめして盤問あるべしと
宇治の左府長岡の王子をはじめとし諸卿官人
列座してありけるに 検非違使の廳より吏人来り
柳希安は縄補りて拖来りし 遂に

一個の退耄人等、霊威ふるゝ雷霆うゝ頼威うゝ剣刀を
揮ひて吏人威追ひ追ひ柳希安を攻殺し逃奔
ふゝ鼠多追逐しうぐゝ踪跡威表ふ鳥
得引ゝ多ゝ又柳希安の所育を拔偵さ
ふゝ身育紅威異ふ世ゝ成ふ撃剣名ふ利
刀の徳ゝ多ゝと奉ゝ
あゝて世ゝ武柳希安の孔渠ゝ世ゝ殺
害世ゝ小ゝ世傷ゝ柳希安万里の遠外ふ逃
て其命を繼世ゝ威情ゝ渠が書畫の
芸ゝ古びゝ流威ふ帝ゝ

め引徒の緒紳ゝふ神威渥ゝ敷ふゝ
の所帝の御使近ゝ来ゝ在所の反ゝ
ゝ漢捷ふゝ水平常房等同ゝ
帝威輪翼ゝ政自ふ
威ふゝ多ゝ一ゝ房ゝ威ゝ料ゝ所
ふゝ多ゝ房ゝ威ゝ王ふ陛下の親
威ゝ虚誕の言威徒ゝ陛下の徒役を渠ゝ害
世ゝ房威調ゝ只柳希安を盗同世ゝ実者
明白ゝ敷房ゝ世ゝ渠泉下の鬼ゝふ世ゝ
ゝ房ゝ世ゝ柳希安ふ横死ふゝ此一件

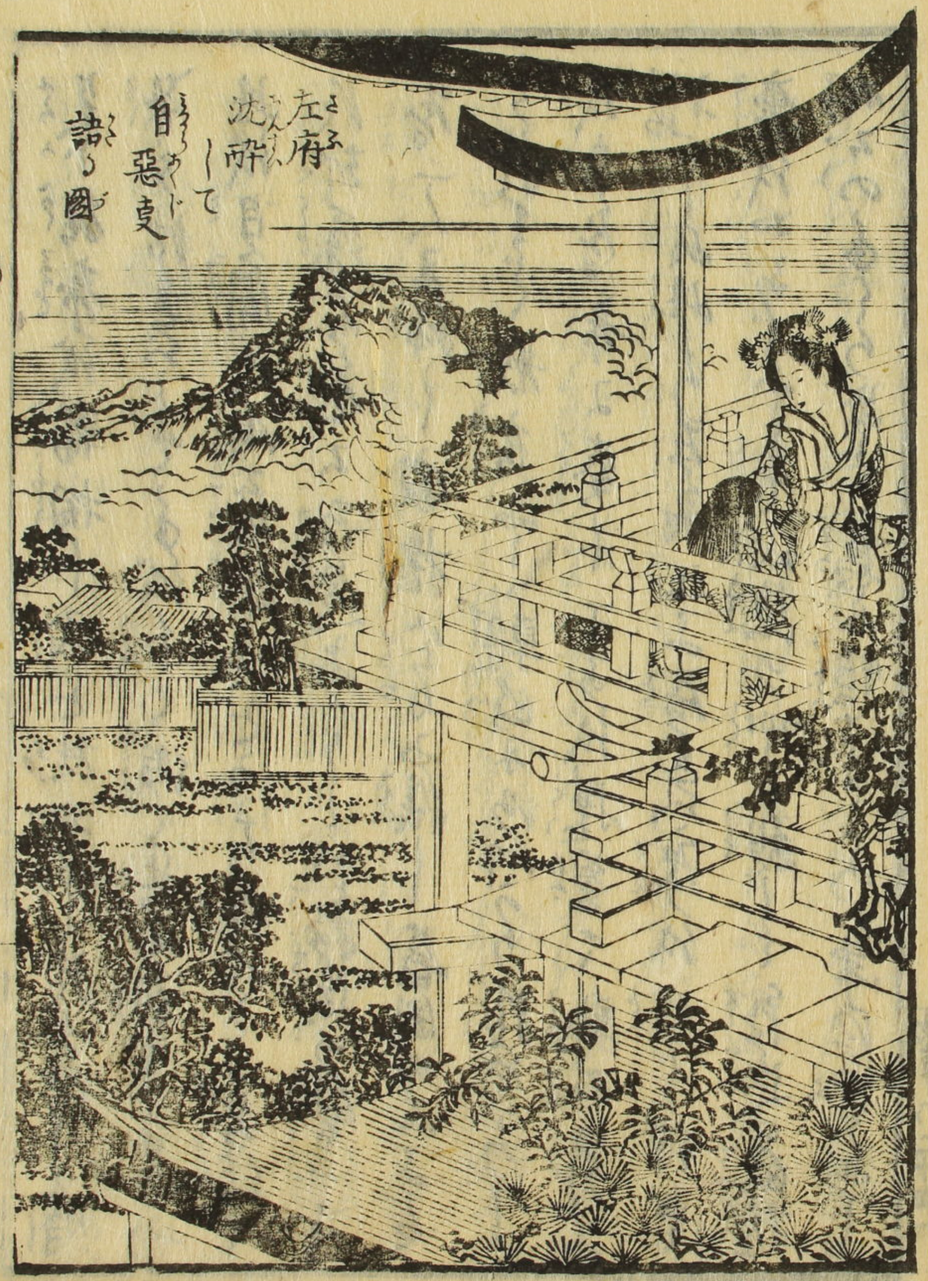
右府公終に[illegible]氏此右府の[illegible]
[illegible]乃水[illegible]濯ひ[illegible]陽を[illegible]曝さも今[illegible]
寛[illegible]まめ[illegible]し先天[illegible]今して渠退[illegible]を
撰宗しめ売人[illegible]右府ふと[illegible]憚ありて用
[illegible]ある[illegible]と理非明断[illegible]説[illegible]
[illegible]の諸郷一[illegible]ふ[illegible]此儀[illegible]と奏し
[illegible]び聽[illegible]孫宰相道[illegible]郷を[illegible]右府ふ閑
[illegible]と命ぜ[illegible]ば時[illegible]まで執政の威
権重く出入階[illegible]の聲喧嘩して門前[illegible]進出入
[illegible]車馬雲のごとくなるも今日[illegible]門の家賓客

[illegible]

[illegible]雖を[illegible]景[illegible]の翟[illegible]の事[illegible]
あ[illegible]の家[illegible]高明神[illegible]の恐[illegible]遍[illegible]這る
の事[illegible]言[illegible]右府公の[illegible]人を[illegible]め[illegible]春[illegible]
[illegible]廟[illegible]祈[illegible]除[illegible]寛[illegible]雪[illegible]
[illegible]願[illegible]右府[illegible]を聞[illegible]我[illegible]
[illegible]明鑒[illegible]
[illegible]斯[illegible]一月餘を[illegible]柳[illegible]
安[illegible]制[illegible]売人[illegible]右府[illegible]の寛[illegible]
[illegible]百の[illegible]も[illegible]其罪を[illegible]
[illegible]不[illegible]階[illegible]剥[illegible]度の海[illegible]流[illegible]

[illegible]斉衡三年四月十八日陸奥の国人
[illegible]の藝を捏のせまつる[illegible]皇都を離
[illegible]人を別るのひてまつる波濤[illegible]陽[illegible]佐渡の海[illegible]
[illegible]人を[illegible]離別をおしみ
[illegible]日もあてまつる[illegible]
[illegible]を頃[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]聖人文王も尚七年の[illegible]
あり周公も植[illegible]の[illegible]を免[illegible]
[illegible]人生の福[illegible]
[illegible]今明[illegible]

明[illegible]
[illegible]の[illegible]
朝廷の[illegible]
[illegible]の王[illegible]
[illegible]一人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]


左府沈酔して
自惡を
語る圖

足下紂帝式輔相し民を撫育し孤寡の時
弁うはまことそを式分て相と共に別し
共式見聞人両人の交情をうち傳へ
以部流布有る公卿遠あるしに新近の近臣
有一人も歸し威権を奮ひ長園の王子
式拾帝に奏し王子式摂政して執政の
列に共に右府土子居まで帝式用し所
裏式おぶふして水魚の如く親しく新近の政権
両人のもうち歩く意ふ順ざるこの式事に
うち式害しの諛者を信ず式まことに忠臣
のこころをたし歎く側月して祖父の
ふるさと郷朝門ふ入こと式諸皇
親しく謁奏し事を報
こと一日右府和漢ふ王子式招て酒を奏
張頭ふ乃んぐ呼こと嘆に我年幼右府の才能ふ
誇にうちうう新たに式人を惑ひにて意を合せ
作力楽式寵て帝に吹氣を霧爆得習ふ楽を
を設こと我ふ勅勤に事式新に事こと式
こと絶側こと大ふ式人今ち我意を逆ふ郷
たふこと式ち陽側ふ聞ふ奏壮観嘉やと右

時青眼その史官菜宴天慶羅剎の怨を入こ
ゝ〳〵おとりまく書物うるる事なるを柳この
右府の母堂あゝ赤白頭巾を着て狂乃み
ありて出たりしが分ち妙内急ゝ和言
ゆ仙猪品ゝ権変の智ありて狼頑の相あり
ゝ〳〵ゝ巳右府の才学に乃ぶ〳〵ゝ妬忌怨
望あるゝ〳〵ども曾ゝ長岡の王を勝
かありて好ずゝ散官ゝ長岡を周旋
あゝ〳〵ゝ親隨書雑に俗事をとゝる機功の
士なゝゝゝ右府の書法を俗ゝ勅海ゝ

應答の文書紙作〳〵ゝ偽慈右府の書ゝ〳〵ゝも
不義ゝ〳〵ゝ大ゝ及び柳帝安ゝ〳〵紙自筆ゝ〳〵ゝ荒
右府を罪ゝ〳〵ゝ柳帝安紙縑捕ゝ盤岡ゝ
〳〵ゝ検非違使の吏人紙書〳〵ゝ張ゝの王ゝ被
ゝ進ゝ〳〵ゝ一個の撃剣ゝ〳〵ゝ吏人の
柳帝安紙縛ゝを追ゝ柳帝安を放ゝ
諸人を敷頁右府紙物〳〵ゝ帝ゝ〳〵ゝ
に科汎ゝ〳〵右府ゝ〳〵ゝ今い悼ゝ
ゝ〳〵ゝ渡酒ゝ起柴沖ゝ〳〵ゝ侵を来ゝ〳〵ゝ横岡
を起造基柳紙縛ゝ〳〵ゝ森管絃の撃り

修養四下の調教歳時の貢獻おのゝ樽の美を
天子みゆき其酒に奉りて酒屋の栗蕈みと
急なる兎狩みゝ帝も只英ちみゝ左府まで
権に奪ひ威中外に行き百僚其命を違ふの
たゝ具繁左府の累代の長村右衛尉ふ
ゝの忠臣の子孫ゝ左府の子内府ふの世ちたゝく
て辛ち旬ふ迫ゝ黄鐘なる壮心の老人ゝ
詩書の道ともゝ年人長歌ふに孝ゝ仁義にゝ
ちゝゝする士ふのちゝゝ近ち彼ち進ゝゝる一個の
剣士に居りゝ義道ありて右兵衛尉ち進ち

奸臣に要ゝ秋小人ゝ列を同じゝも新に孤ちはく
に致ゝゝ己が来邑ふ国居ゝてありるが左府の鴉
横に風怪るの道練ち兵どんべいゝ居ちゝゝ長根
ちあゝゝあ赤僕に沿ゝ来邑の知ち起ゝ宇治ふ
に成ゝゝ

物草太郎巻之一終